令和6年度 新潟県 英語教育改善プラン

目標

指導と評価の一体化を図り、児童が英語を使って「伝わった！」「分かった！」と経験できる場を充実させる。

○CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定している学校 (R5:89.6%⇒R6:100%)

○「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」を評価するパフォーマンステストを実施する学校 (R5:98.6%⇒R6:100%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標について、設定している学校が増加
(R4:83.4%⇒R5:89.6%)
公表する学校も増加
(R4:59.9%⇒R5:69.1%)
達成状況の把握も増加
(R4:80.4%⇒R5:81.3%)
- ②児童の英語による言語活動を授業時間の50%以上行っている学校が増加
(R4:89.4%⇒R5:94.5%)

未だ改善が必要な点

- ①「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」を評価するパフォーマンステストを実施している学校がわずかに減少
(R4:98.9%⇒R5:98.6%)

2. 要因分析

- ①小中高の「新潟県英語スタンダードズ」(CAN-DOリスト形式による学習到達目標)を作成して各校に配付し、各校で実態に合わせて作り直していくことを伝えた。
- ②R2・R3の「外国語教育推進のための授業改善モデル事業」の成果をブックレットにまとめ、各校に配付し、研修の機会に活用を呼び掛けた。

①上記①②により、CAN-DOリスト形式による学習到達目標に基づいて単元の指導計画や評価計画を立てることの重要性についての教師の認識が高まっている。しかし、パフォーマンステストの設定や言語活動が不十分な学校があり、さらなる改善が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②「外国語教育推進のための授業改善モデル事業」の成果を今後も継続して普及するとともに、授業実践の優良事例を共有するため、「外国語授業づくりオンラインワークショップ」を行い、小学校の実践発表を行う。
 - ②「英検ESGを活用した児童生徒の英語力向上事業」を行うことで、児童の英語発話を促すとともに、児童の意欲向上を図る。
 - ②小中高連携をし、言語活動の優良事例を共有する。
 - ①「小学校外国語実践講座」(80名参加)および「小学校英語専科教員情報交換会」(地区ごと、県で55名)を行う。教師の意識向上を図るとともに、教師同士の横のつながりを大切にして、教材やパフォーマンステストに関するアイデアを共有できるようにする。また、教科教育専門監・英語教育推進リーダーを活用し、各地区で授業づくりや授業改善の向上を図る。
- 一定の英語力を有する教師を採用できるよう、TOEICやTOEFL iBT、実用英語技能検定等で一定の成績を有する場合に、教員採用選考検査の一次検査で加点を行う。

令和 6 年度 新潟県 英語教育改善プラン

目標

授業中の言語活動の一層の充実により、生徒の英語力を向上させる。

- CEFR A1(英検 3 級程度)の英語力を有する生徒の割合 (R5:49.2% ⇒ R6:50%)
- 授業時間の50%以上言語活動を実施する学校の割合 (R5:64.9% ⇒ R6:80%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①英語教育実施状況調査の結果、CEFR A1の英語力を有する生徒が増加
(R4:43.9%⇒R5:49.2%)
- ②CEFR B2の英語力を有する英語教師が増加
(R4:44.1%⇒R5:49.2%)
- ③小学校と連携している学校が増加
(R4:64.7%⇒R5:65.9%)

未だ改善が必要な点

- ①英語による言語活動を授業時間の50%以上行っている学校が減少
(R4:67.0%⇒R5:64.9%)
- ②授業の発話が50%以上英語である英語教師が減少
(R4:64.1%⇒R5:54.6%)
- ③ALTが参画した授業のうち、ALTが生徒とやり取りをした授業が50%以上である学校が減少
(R4:75.9%⇒R5:73.3%)
…**生徒の英語使用場面が減少**
- ④英語の勉強が好きな生徒が減少
(H31:55.5%⇒R5:51.2%)

2. 要因分析

①英検IBAを全中学校・義務教育学校で実施し、その結果を受けて各校で授業改善を図った。また、県で作成した問題を年間5回配信し各学校の授業内で活用する「にいがた学びチャレンジ」とおして、各校で思考力、判断力、表現力等の育成に努めた。

①②③

・コロナ禍後、全国的にはそれぞれ数値が回復している一方、新潟県では依然として数値が低下している。
・県では授業でのICT機器の活用は進んでいる一方、英語の授業では発話の録画や録音(R5 県:87.3%、国:82.7%)、授業内での発表の活動の実施(R4 県:89.6%、国:86.9%)で高い数値となった。自身の発表の様子を録画して教師に提出するなど、必ずしも「コミュニケーション」ではない場面が多いことがうかがえる。

④生徒の英語使用場面が減少し「英語が伝わった」「英語が理解できた」という経験が少ないことが予想される。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③④

◎「Students Enjoy English (SEE) Project」と称し、授業内で生徒が英語を使用する場を増やすことで生徒の興味・関心の向上をねらいとする事業を展開する。

・「英語授業改革研修」…県内全165校の中学校の英語主任を対象にした研修を実施し、県内の状況の周知と各校の目標の明確化を行う。

・指導主事等による学校訪問…指導主事や教科教育専門監等が各学校を訪問し、英語教師の困り感の把握と改善を図る。

・外国語授業づくりオンラインワークショップ…言語活動の充実に関する授業実践の共有を行う。

・英検IBAや「にいがた学びチャレンジ」を活用した授業改善…「英語が伝わった」「英語が理解できた」という経験を増やすことができるようにする。

・英語教師の英語力向上…英検等受験料補助の周知とオンライン英会話等の補助を行い、CEFR B2レベルの英語教師の割合を増やす。それにより、教師の英語使用状況の改善を図る。

・小中高連携をし、言語活動の優良事例を共有する。

令和 6 年度 新潟県 英語教育改善プラン

目標

授業中の言語活動の一層の充実により、生徒の英語力を向上させる。

- 授業中、50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている学校の割合を60%にする。
- CEFR A2（英検準2級程度）の英語力を有する生徒の割合を50%にする。（R5：45.3%）
- CEFR B1（英検2級程度）の英語力を有する生徒の割合を20%にする。（R5：16.4%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業中、50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている学校の割合が増加。
（R4:40.2%⇒R5:45.8%）
- ②教員の英語指導力について、CEFR B2レベル相当以上を取得している教師数の割合が前年度から増加。
（R4:73.1%⇒R5:83.5%）

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベルの英語力を有する生徒の割合が前年度から減少。
（R4:46.9%⇒R5:45.3%）
- ②英語担当教師の授業における、英語使用状況が50%以上の学校の割合が、前年度から減少。
（R4:34.4%⇒R5:28.8%）

2. 要因分析

- ①各校において、指導と評価の一体化が図られていることに加え、全県で実施する英語教育に関する研修において、前年度の結果を示し、取組を共有したことで、割合が増加したと考えられる。
 - ②研修等において、文部科学省の外部検定試験助成制度等を利用するよう促したことが要因として考えられる。
- ①生徒が英語で発信する活動が不足しており、学ぶ意欲の向上につながっていないことが要因だと考えられる。
 - ②生徒の英語力が低下していることを理由に、授業において、日本語を使用して説明する教師が増えたのではないかと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①言語活動の充実の推進
英語発信力育成研究事業の研究指定校の取組や、教科研究員の取組の全県への波及などにより、言語活動の一層の充実を図る。
 - ②外部検定試験等の受検の推進
年に数回実施する英語教育に関する研修において、助成制度等を利用するよう引き続き促していく。
- ①授業改善の推進
生徒の英語を学ぶ意欲を上げるために、英語での発信力を身につける取組の事例として、事業の指定校において外部検定受験者の増加につなげた取組を、英語発信力育成研修において紹介し、全県の授業改善を推進する。
 - ②教員の授業における英語指導力向上
指導主事による授業参観や、英語発信力育成研究事業指定校の授業動画の共有などにより、全県の教員に参考とすべき具体的な実践例を示す。

新潟県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	45.3	50		55		60		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30	16.4	20		25		30		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	45.8	60		65		70		80		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70	44.5	60		65		70		80		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	93.2	100		100		100		100	
		公表(%)	90	48.9	60		70		80		90	
		達成状況の把握(%)	90	46.6	60		70		80		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60	83.5	85		85		90		90		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	28.8	50		60		70		75			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	49.2	50		55		60		65		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	64.9	80		80		80		80		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	85.1	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99.4	100		100		100		100	
		公表(%)	90	71.7	90		90		90		90	
		達成状況の把握(%)	90	83.2	90		90		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60	49.2	50		55		55		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	54.6	80		80		80		80			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	89.6	100		100		100		100
		公表(%)	80	69.1	80		80		80		80
		達成状況の把握(%)	90	81.3	90		90		90		90